

◎報告

看護部活動報告

三朝分院看護部

1. 教育活動

【院内教育】

(学習会)

看護記録の充実と記録の質の向上をめざして様式にそった経過記録 (SOAP形式)、中間サマリーについての症例検討会を月1~2回行い各自の意識を高めた。

(伝達講習会)

「基礎から学ぶPOSによる看護記録」

石田美枝子, 山本貞枝

「看護実践と看護記録」

前田恵子

(個人研究)

11月, 12月に院内発表会をもった。

①「歩行運動のしおり」入院患者用作成

西村伸子, 黒田昭子, 坂本香須美, 細田つる子, 池田昭子

歩行の生理。歩行による効果的なトレーニング。歩行運動の実際, 開始前の準備と心構え, コース紹介, 歩行による障害等をわかりやすくまとめた。

②「妊婦水泳を試みて」帝王切開分娩に移行した3例について

坂田旬子

3症例をもとに今後の経過観察と指導の問題点を検討した。

③「経過記録の中にSOAP記録を定着させるための試み」

中村寿美江

SOAP記録を義務づけることにより習慣化する目的で, 40日間入院経過した患者の看護記録を調査し問題点, 改善方法を検討した。

④「糖尿病食事療法の家庭自己管理のうまくいかない患者の問題点について」

尾崎信子, 山上桂子

アンケート調査により, 食事指導を受けた患者

の理解と実際の問題点をあげ指導方法を検討した。

⑤「RA教室のもたらす効果について」

石田美枝子

62年より毎月2回, 主として入院RA患者を対象に, 疾患に対する認識をたかめ交流を目的にRA教室を実施している。

63年4月~10月まで入院し, 教室に参加し, 退院した35名を対象にアンケート調査し, 教室の問題点を検討し, RA教室継続の必要性を確認した。

⑥「退院時要約」その現状

賀須井捷子

看護記録の学習会, 研修会参加等, 看護記録に対する意識はたかまりつつある。退院時要約も61年来義務付けられている, 元年度上半期記録を調査し問題点を検討した。

⑦「初期計画の見直し」

伊賀真由美, 前田恵子

前田は, 元年7月「看護実践と看護記録」の中央研修受講, 当院での記録の問題点を看護過程にそって見直し, 情報収集をヘンダーソンの14項目を使用, 情報分析→問題の明確化→患者の合意を得た初期計画をたて学習した。

⑧「カーデックスの効果的な利用」

吉尾慶子, 石湯和子, 増井悦子, 江間美津子, 西谷由紀子, 能見真由美

患者の全体像を短時間で把握することを目的としてカーデックスを利用している。看護目標, 看護計画, 医師指示箋, 処方箋, 注射箋, 処置箋, 理学療法指示箋, 食事箋, 等のカーデックスへの転記, 訂正の問題点を改善検討した。一部分三連複写改善検討中。

⑨「管理と薬から自己管理への援助」

吉田佐智江, 福井由美, 藤井純子

重症者以外でも内服薬の管理と薬をしなければ

ならない患者が増えている，退院に向けて自己管理の問題点を検討し，改善指導した。

⑩「慢性呼吸器疾患患者のプール訓練について」

高田信江，寺崎佳代，山本貞枝，藤井洋子，
中村あけみ

喘息患者がプール訓練の効果を理解し，積極的に訓練の必要性を意識付ける指標として，温泉プール訓練前後の症状の変化，痰の出方，最大呼気量測定を行い検討した。

⑪「深呼吸後の血圧測定を行い，一貫した結果を見なかった例」

森次喜代子

血圧測定時の看護について検討した。

⑫「教育入院した糖尿病患者の一症例」

田熊正栄

記録，数値にたいしての指導の受け入れられない症例について検討した。

⑬「1年間毎日の看護度測定による看護要員の適性配置の検討」

吉田順子，病棟看護婦一同

一看護単位の受け持つ患者数は40人を超えないことが望ましいといわれている。当院においては，70床混合病棟，看護体制は機能別チームナーシングとプライマリ・ナーシングを併用実施している。前年度月1回調査と1カ月間のみ毎日調査実施したものと適否と問題点を検討した。

(講演会)

6月「ペースメーカー植込み術について」

内科 周藤講師

6月「臓腑疾患の診断と治療」

内科 原田教授

7月「喘息患者の病態と治療」

内科 谷崎教授

2月「CTについて」 放射線科 亀山技官

【院外研修】

県看護協会研修会

「看護研究のすすめ方，まとめ方」

「詩を読みながら」

「地域における母子の継続看護とその実際」

「精神保健」

「思春期の心理」

「ターミナルケア」

「学生指導の実際」

「看護カウンセリング」

「看護過程」

「訪問看護」

「リーダーシップ」

「情報収集と生かし方」

「言葉づかいは心づかい」

「家庭看護講習会」

「看護業務における効果的な申し送りのあり方」

中国四国地区研修会

「セルフケアと看護の役割」

日本看護協会中央研修

「看護実践と看護記録」

病院協会

「頸部のいたみ」

「地域における母子の継続看護とその実際」

日本アレルギー協会中国支部

「喘息児童夏期教室」

日総研

「基礎から学ぶPOSによる看護記録」

関西看護ケア研究会

「臨床看護の心を求めて」

上記研修会に各1～2名参加し，レポート提出2件については，伝達講習会を行った。

2. 業 務

グループ活動

・業務改善 (リーダー 黒田)

病棟における毎日の定期注射薬個人分包所要時間(翌日使用のもの)と，投薬業務所要時間の測定を行い，問題点と対策について検討した。

・患者受持制検討 (リーダー 中村s)

チームナーシングに受持制を取り入れ久しくなる，看護婦の受容度を年3回のアンケート調査を行い検討し，入院から退院まで自分の患者である責任を意識づけた

・看護手順 (リーダー 賀須井)

検査関係の手順作成，修正を行った。

3. その他

(患者教室)

・RA教室 (係り 石田，細田)

21回 延参加数 230名

薬の話し・慢性RAと検査・食物繊維のはなし・RAの自助具・RAと薬物療法・履物、靴の工夫・温泉療養の注意・弾力包帯の巻き方・RA体操・RA療養上の大切なこと・副腎皮質ホルモン剤について・RAと感染症・慢性疾患と民間療法・体験談RA教室への感想と要望・クリスマス会等医師・薬剤師・リハビリ・栄養士・看護婦それぞれ分担し患者と共に学習し、交流した。

・喘息教室 (係り 高田, 寺崎)

月2回程度 23回 延参加数 258名

プール訓練について・肺の構造と働きについて・診断のための検査とその意義・気管支喘息の概要・BAの血液検査・BAの肺機能検査・家のほこりについて(ビデオ)・BA教室の意見交換BA患者のリハビリテーション。アンケート調査結果に

ついて・BA日記のつけ方

真菌による喘息・等一緒に学習した。

・糖尿病教室 (係り 田熊, 尾崎)

月1回 延参加数 105名

DMと日常生活・正しく知ろう糖尿病・

糖尿病とは、糖尿病はなぜ怖いか

食事療法Ⅰ, Ⅱ・糖尿病食試食会

運動療法について・糖尿病のよいコントロール・

薬物療法Ⅰ経口糖尿病薬, Ⅱインシュリン・糖尿

病食試食会・質問及び反省

医師, 栄養士, 看護婦がそれぞれ担当し患者と一緒に学習した。

看護部にたいして、たくさんの方々からのご指導、協力を戴きましたことを心より感謝いたします。

(吉田 記)